

ロシア 東 欧 経 済 速 報

ロシア東欧貿易会 東京都中央区新川1-2-12 金山ビル 郵便番号104 電話 (3551) 6215～9
ロシア東欧経済研究所 [購読料・送料共前納 1ヶ月—1,500円 1年—18,000円]

1997年(平成9年)7月15日 No. 1062

目 次

当世ロシア人のライフスタイル……………	遠山花 1
—変わるロシア、変わらないロシア—	
統計速報……………	13
1997年1～3月のロシアの外国投資受入状況/13	
キーパーソン……………	13
スキャンダル司法相、解任される/13	
ケメロヴォ州知事を解任、後任にトゥレーエフ氏/14	
C I S 諸国通貨の最新為替レート……………	14

当世ロシア人のライフスタイル —変わるロシア、変わらないロシア—

はじめに

冷戦時代、西側のソ連報道は社会主義体制の否定的側面を伝えることに多くを費やし、ソ連のプロパガンダは事実を粉飾し、欠点を押し隠し、社会主義の美点のみを伝えることを報道の目的としていた。ゴルバチョフ時代の「グラスノスチ」で国民は発言の機会をもつようになり、ソ連のマスコミもそれまで伝えられなかった「事実」を報道するようになったが、センセーショナルな面ばかりが強調されたきらいがあり、極端な報道合戦の狭間で、庶民の生活の実状が浮き彫りにされることはなかった。

近年でも、日本のマスコミでは「新しいロシア人」と呼ばれる富裕層の羽振りのよさと、年金生活者など社会的弱者の困窮ぶりという「両極端」ばかりがクローズアップされる傾向があり、一般のロシア人の暮らしぶりが明確には伝わってこない。

ロシアにモノを売り込むにしても、ロシア人と交渉するにしても、そのライフスタイルの実態を知ることなしには、成功はおぼつかないであろう。そこで本稿では、社会・経済体制が大きく変化している今の時代をたくましく生きる「普通の」ロシア人たちの生活を、できるだけその「ひだ」の部分に分け入って解き明かすことを試みた。本稿は、筆者がソ連時代から現在まで彼らの生活を観察して得た知識をもとに、何人かのロシア人の助言も得ながらまとめたものである。なお、周知のようにロシアでは地域ごとに社会・経済事情が大きく異なっているが、本稿ではモスクワに代表される都市部の状況に分析の重点を置いている。